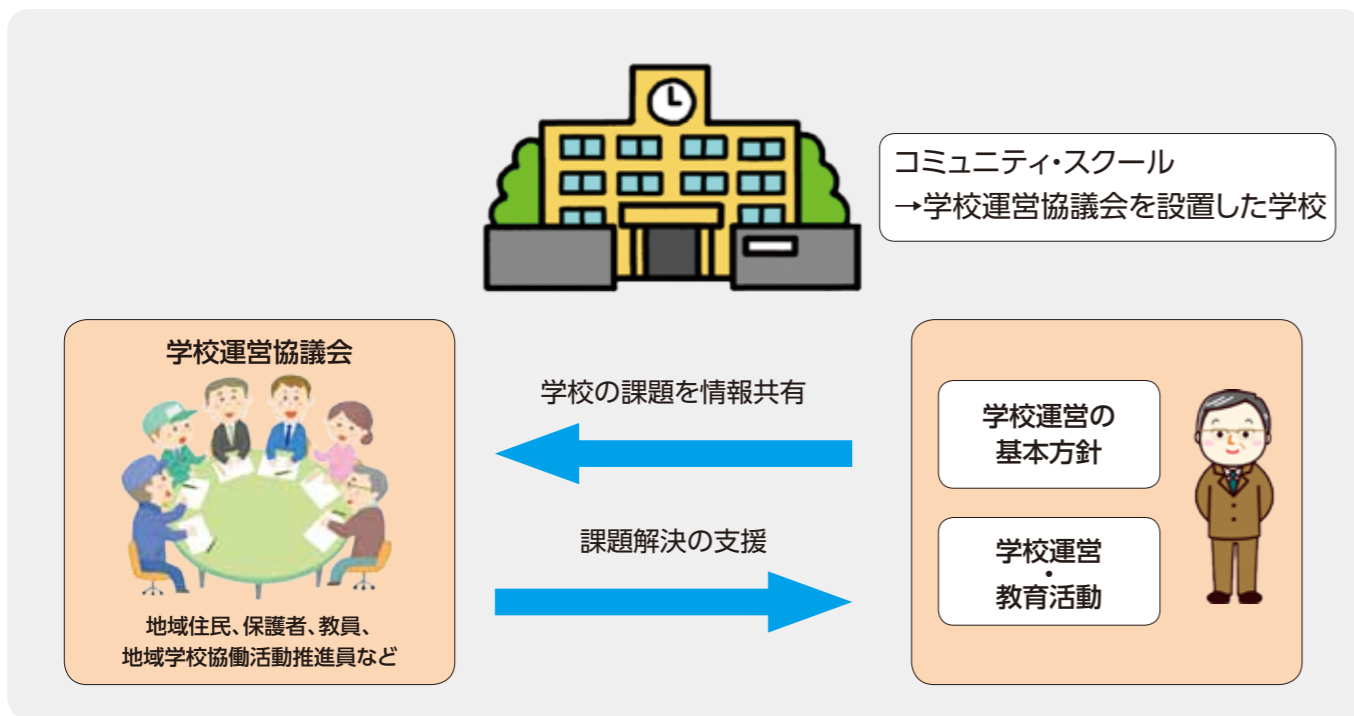


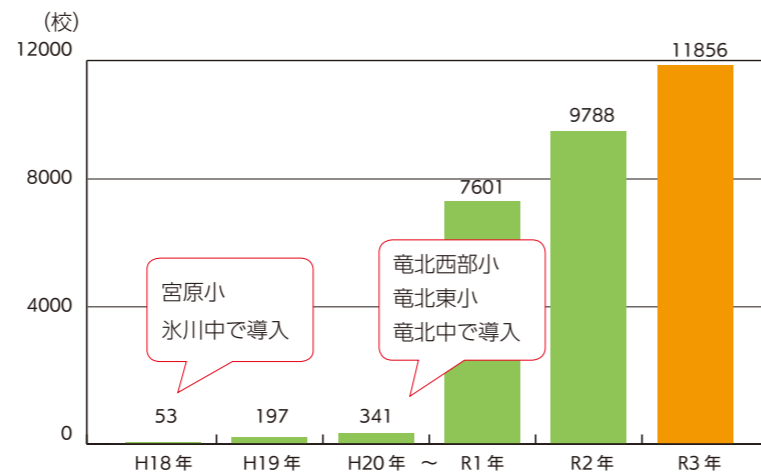
[図で見るCS]



[数字で見るCS] ~ CS 導入学校の推移 ~



▲毎月15日に全校で実施しているあいさつ運動一斉行動の日。学校・地域・行政が一体となって子どもたちを見守っています。



例えば親子体験活動。地域の人をゲストティーチャーに招き、地域の文化や郷土料理などを一緒に学ぶこの活動は、地域と学校が連携・協働しているCSならではのものです。

また、毎年11月第1土曜日の「CSの日」には、竜北中学校区でオータム交電会、氷川中学校区で防災教室を開催し、小中学校が連携した取り組みを行っています。

CSを導入した当初は、CS委員さんも「学校とどう関わればいいのかわからなかった」そうですが、今では学習支援や学校行事の支援、あいさつ運動や登下校の見守りなど、各CSでの取り組みが活発になり、「開かれた学校」として地域に親しまれています。

地域と学校が力を合わせて子どもたちの学びを後押しするCS。CS活動でのふれあいを通じて、地域の人にはやりがい、子どもたちには郷土愛が芽生えます。みなさんも一緒に「地域総がかり」で子どもたちの成長を応援していきましょう。

住人十彩

2022 January

#21 ~氷川町小中学校コミュニティ・スクール~



氷川町は、すべての小中学校で「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入しています。今回、地域住民と学校が連携した取り組みについて、各校のコミュニティ・スクールの会長さんにお話を伺いました。

地域とともにある学校づくり

「CS(コミュニティ・スクール)」という言葉を知っていますか？  
小中学校に通う子どもや、その保護者にはもうおなじみの言葉になっていることでしょう。

CSとは、「地域と力を合わせて子どもたちを育てる学校」のことをいいます。

全国的にもこの数年で、CS制度を取り入れる学校が増えてきました。主な要因としては、少子化や核家族化、共働き世帯の増加など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変わったことや、多様な教育現場に学校だけで対応することが難しくなったことなどが挙げられます。

このように変わりゆく時代に対応するため、学校だけでなく、地域も一体となって子どもたちの教育活動に参加するCSが注目されています。

町では10年以上前にいち早くCS制度を取り入れ、「地域とともにある学校づくり」のためにさまざまな活動を行っています。